



### 金谷友松邸土塀復元作業

中津は、1587年 黒田如水が中津城の築城を、その後城主となった細川忠興が、城下町としての「町割(区画)」を行い、小笠原氏時代に町が整備され、豊前の繁華の地とうたわれた一大商業地となり、奥平氏の時代に明治を迎えました。

近代になって、社会の発展にともない、全国的に古いものがおきざりにされ、この中津でもそのほとんどが失われました。そのような中で、この金谷地区は、当時の「町割(区画)」が広くまた、色濃く残っている、全国的にも非常にめずらしい地区です。

この「町割」を保存し後世に伝えたいと考え、平成17年度のNPO中津まちなみ会の活動の一環として、友松邸の土塀復元作業に取り組みました。



この友松邸は、作家の獅子文六氏の父親の建物で、氏が少年時代の夏休みに帰郷して過ごした住まいでした。小説「父の乳」に「庭は、かなり、旧態を存してた。武士の家らしく、石や松もあったが、それよりも、軒に近い一隅に、石で囲んだ古井戸があった。」と記されています。今もこの古井戸はあります。

力仕事が夏の一番暑い時期だったので、かなり大変でした。工科短大の学生さんも一緒に参加してくれ、大いに助かりました。活動の様子はマスコミでもたびたび紹介されました。



土ブロック作り (7月)



土塀本体の作成 (8-9月)



自然石積み (7月)



土ブロック養生 (7-8月)



土塀下塗り



土塀上塗り完成 (11月)

中塗り (10月)



参加人数41名、延べ作業時間2000時間 皆さん大変お疲れ様でした。

**建築士会全国大会 愛知大会** 去る6月10日全国大会が愛知県名古屋国際会議場をメイン会場として行われました。全国より約4千人、大分県では54名中津支部は6名の参加でした。大会の内容については、建築士おおいだ10月号に詳しく掲載されています。

来年は栃木大会です。会員の皆さん、一度参加してみたいかがでしょうか!!



**研究会宮崎大会** 9月3日(土)中津支部青年部より8名が参加しました。シンポジウムでは東京大学大学院教授の「篠原 修」教授と「内藤 廣」教授が、日向市中心市街や新駅舎の長年の構想を題材に「魅力あるまちづくり」について貴重な話をされました。

しかし、二人の親近感あるトークのせい、テーマである「建築と土木のコラボレーション」に沿わないまま講演時間が終了し、最後に控えていた主催者がコメントに困っていた様子がおもしろかった。また今回の講演からは、「魅力あるまちづくり」について自分たちの子供や孫の思い出に残る様な「将来を見越した景観づくり」の必要性を学ぶことが出来ました。今回の研究会を終え、現在中津市で進められている「中津の歴史ある街づくり」について改めて考えさせられました。 是本昭善



**工科短大CADセミナー** 10月15(土)、16(日)の二日間、県立工科大学でCADセミナーが行われました。先生のサポートとして建築士会より延べ6人が参加しました。日頃から使い慣れているはずのCADですが、人に教えていると新たな発見もあり、自分たちの勉強になったようです。



**サマーセミナーin 国東** 10月22日、第19回サマーセミナーin 国東半島が開催されました。中津からは、7人参加しました。いこいの村国東マリンホールでの開会式のあと、第2分科会の「マガタマコース」に参加した一行は、やよひの村でマガタマづくりを体験～名酒西の関でおなじみの萱嶋酒造の工場見学と、約3時間の楽しい体験と見学をしました。



**折り紙建築教室** 今年度は、大幡公民館(9月17日) 上津小学校(11月10日) 清浄園(11月19日)の3会場で開催されました。詳しくは中津支部のホームページをご覧ください。 大幡公民館 上津小学校 清浄園



**忘年会** 11月26日 瑠璃京にて 参加者35人 少し早い忘年会、今年のうっぶんばらしに、ワイワイガヤガヤ 大いに盛り上がりました。今回は、NPO中津まちなみ会の慰労会と兼ねた忘年会でした。



### 水曜喫茶室

11月9日 建築会館にて、アスベストの勉強会が開かれました。専門の講師を招いて、約2時間みっちり勉強しました。人体に与える影響や撤去費用等、あらためてことの重大さについて思い知らされました。



### 女性部だより



平成17年12月2日、3日と「全国女性建築士連絡協議会」略して「全建女」に参加すべく、私、岩本と野依さんとで、お船に揺られて香川県は高松市へと馳せ参じました。12月2日は、開会式と共にシンポジウムにて、各先生方のありがたいお話を拝聴させていただきました。12月3日は、参加者約260名が各分科会、A~Hに分かれて、それぞれのテーマに沿って意見の交換をしました。私共は、A分科会、テーマは「素材の伝承」でした。そこで、我等が女性部長!野依さんがコメンテーターとして、「友松邸の土塀造り」を発表しました。土塀造りの、素材から工程までをよく調査し、素晴らしい内容でした。



その後、高松港の「北浜アリー」を見学。古い倉庫とカフェ、雑貨屋などの商業施設が合体しておしゃれな雰囲気を醸し出していました。香川といえば「讃岐の国」おうどんですが、「つるつる、しこしこ」ととても美味しかったです。

私もこれから香川のおうどんのように、「ふとお〜く、ながあ〜く、頑張らねば!!」と思いました。 岩本 桂子



### わたしの作品

今年、6月末に耶馬溪にオープンした「とろろ乃湯」は私の父の長年の夢を実現した施設です。温泉を掘り当てたのはもう6年くらい前までは近所の人たちに無料開放していました。家業である養鶏場の地鶏を食べてもらい、温泉に入ってもらおう!それが父の夢でした。

建っていた鶏舎を解体し、土地の造成、地鎮祭まではスムーズにいったのですが、まだ図面が出来ていない。それから4ヶ月後、ようやく建築確認も下り着工の運びとなりました。決まっているのは大工だけ。基礎、左官、木建、金建、板金、設備、電気・・・などなど全ての工種について私が決定しなければならず、予算も今までの私のなかでは考えられないような金額。業者からの見積もり徴収、ネゴ、安い材料は無いかとインターネットで調べたりネットオークションで中古を購入したり。現場が始まれば職人たちのテゴ。土方やペンキ塗りや後片付け。。「俺は施主で設計士じゃ!」と心で叫びながら人工を減らすためには仕方ないとブツブツ。こんな事は現場経験があれば当たり前の事だが、学校を卒業して以来、設計畑で育った私にとっては初めての事。現場を進めながら妥協してしまった事は沢山ありましたが、まあまあ出来たと思っています。この現場では施主、設計者、施工者の3者の立場に立つことになり、今後、私の建築士としての仕事あり方を考えさせられた現場でした。 岩本 泰樹



雪の中の「とろろ乃湯」

大分合同新聞のホームページで動画が見られます。 www.oita-press.co.jp

### 事務局だより

早いもので1年すぎてしまいました。ずーっといた様な太い顔をして事務局で楽しんでいます。今年は皆様に建築士会に入ってよかったと思っただけ様な「行き届いたサービスを!!」をテーマに頑張りますのでよろしくお願い致します(原)。

